

全科協ニュース

1980年7月1日発行
(通 巻 第 54 号)

全国科学博物館協議会

東京都台東区上野公園
国立科学博物館内
〒110

Tel. 03-822-0111(大代)

おもな内容： ◇スタジオ・スペース 生駒山宇宙科学館 ◇特別展「緒方洪庵と適塾」展の開催をめぐる 内藤記念くすり博物館 ◇新しい通信システムと博物館——2つの館を結ぶ二元テレビ生中継の実演—— ◇新しい展示 岐阜市少年科学センター ◇アジア地域博物館職員訓練会議について ◇全科協理事会および総会開催される ◇会員館園の紹介 郡山市児童文化会館 ◇「科学博物館への招待」刊行される

ス タ ジ オ “ ス ペ ー ス ”

生 駒 山 宇 宙 科 学 館

最近、博物館の展示に映像が導入され、特にVTR装置が盛んに活用されている。展示としての利用はほとんどの館園で行われているようであるが、サテライト・スタジオ的な利用となると限られてくる。

当館で昨年末に設置したシステムは、スタジオ「スペース(宇宙)」と名乗っているが、別に本格的な設備をもつブースがあるわけではない。展示場の一角にあるので、撮影するにあたって、館内の既設展示物がすべて背景となるし、小道具や大道具にも使えるというところに特色がある。しかもスタジオとして利用しない通常の状態では、VTRテープを放映する展示とすることもでき、またテレビの科学番組の放映もできるという多面的な利用が可能である。

このスタジオを設置することになった契機は、昨年の春に当館のある生駒山遊園地での催しのために購入した

器材一式があるので、その利用方法を考えてみてはどうかという話がそもそものはじまりであった。そのため器材一式の購入費は総額345万円、設備作業費は館員の手によって製作したのでゼロという経費で設置することができた。しかも、小型放送局並の設備をもっている。ここにある器材は、次のようなものである。

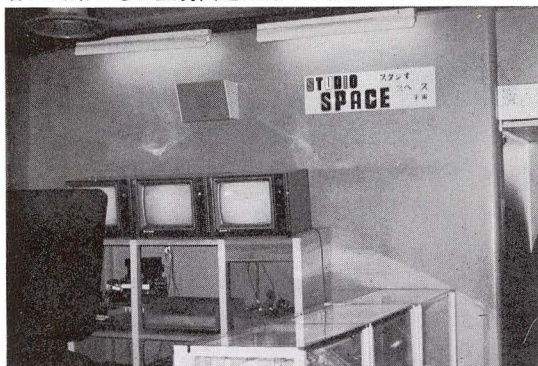
器 材

カラー・テレビ・カメラ(移動用三脚付)	2台
大型ビデオ・プロジェクター	1台
20型モニター・テレビ	4台
3/4インチ・カセット・ビデオ	1台
1/2インチ・カセット・ビデオ	1台
ビデオ・ミキサー	1台
同期信号発生器	1台
カセット・テープ・デッキ(BGM用)	1台
映像分配器	1台
ダイナミック・マイクロフォン	2本
カメラ延長用コード	1式
その他、拡声装置など	

さて、このシステムを利用して、どのようなことができるかという、次の2つの使用法がある。

1. 宇宙科学館の館内展示品を利用して、テレビ番組の制作

たとえば科学館見学のしおり、科学館の教育活動、特異天体現象の紹介などについてのテープを制作し、できあがったものは学校放送用として貸し出すように



スタジオ「スペース」コーナー

する。

2. 学校放送クラブ・天文クラブ・科学クラブなどで学校放送用番組（テープ）の制作

あらかじめシナリオを添えて申し込んだうえ、テープを持参した児童・生徒がスタジオ器材を利用して、テープの制作ができる。できあがったテープは、学校へ持ち帰り、学校放送で利用することができる。

例……宇宙科学館の見学、天文単元の解説、宇宙・天文に関する物語

このように撮影する場合、館内の展示品、写真、図表などすべてにわたって対象となり、しかも機材の使用料は無料（平常の入館料のみ負担）でVTRテープの制作ができるというシステムである。

子供たちが自分でインカムを頭につけて連絡をとりながら、自作テープの制作を行うことができるということで好評である。しかし、シナリオの作成、日時の調整などの都合で、学校休暇中の利用が多くなっている。

（浜根 洋）

【特 別 展】

適塾修復・史跡公園化記念

「緒方洪庵と適塾」展の開催をめぐって

内藤記念くすり博物館

福沢諭吉や大村益次郎、橋本左内など、千人にも及ぶ若い人材を輩出したのが、緒方洪庵の開いた蘭学塾・適塾である。このほど4年がかりの解体・修復が完了し、一般公開されている。周辺の史跡・公園化も実現されることとなった。

これを記念して、内藤記念科学振興財団と適塾記念会の主催で、標題の特別展が開催されている。会期と会場は以下の通りである。

5月27日ー6月8日 大阪 三越

6月11日ー6月16日 福岡 岩田屋

6月20日ー7月20日 岐阜 内藤記念くすり博物館

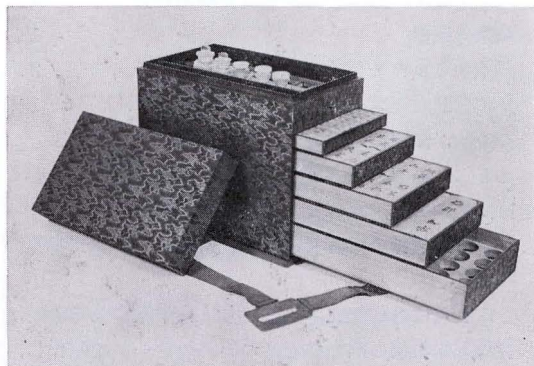
7月29日ー8月3日 東京 三越本店

同塾には、函館から長崎まで日本全国から250点の資料が勢揃いし、これほど充実した内容の洪庵展は、絶後と思われる。

以下におもな展示物を紹介する。

a 緒方洪庵

洪庵の4つの画像がすべて出品された。40才、50才、53才（2点）の時のもので、それぞれに洪庵の人柄を伝えるものである。薬箱や刀架のある煙草盆、硯箱など身の廻りの品、また、業績や人柄、その他日常生活を知る



洪 庵 の 薬 箱

手がかりとなる著作や書簡も数多く出品されている。洪庵の著作の中心をなす扶氏経験遺訓をはじめとして、修学時代の翻訳書、種痘やコレラに関するもの、歌稿や日記、医者としての自警を記した扶氏医戒の略など。また弟子の質問状の行間に朱字で回答を書き入れたものや、紹介状など、教育者として労をいとわない暖かい洪庵の人柄がしのばれる。

b 適塾門下生の活躍

塾生が、どのような環境で何をどのように学んだか、多くの資料から伺い知ることができる。

適塾の模型、636名の門下生の署名のある姓名録、1等から9等まで分けられた塾生の等級別名簿、○印と●印で会読の得点を示した成績表、塾生が争うように使ったといわれる、ただ1冊の蘭日辞書・ゾーフハルマ、オランダ原書など。個々の門下生では、福沢諭吉の渡欧時の写真や、大村益次郎愛用のランプ、六分儀などの身の廻り品や、代数ノートなども見られる。

ほかに、開国論者の橋本左内、大野藩洋学館を開いた伊藤慎蔵、赤十字につながる高松凌雲や佐野常民、花房義質、統計学の草分け杉亨二、衛生行政の確立者長與専斎、洪庵の次男緒方惟準といった著名な人々を紹介している。

c 適塾の建物と沿革

今回の修復で見えられた天王寺屋への手紙、洪庵の振手形、建物に使ってあった瓦や和釘が出品された。

d その他、大阪、福岡、岐阜、東京の4会場を移動するため、その土地の特色を持たせるのに苦心した。

たとえば、大阪会場では大阪の蘭学についてふれ、中井履軒の画像や顕微鏡、小石元俊や小石元瑞の画像や、産科聴診器やトリニケット、橋本宗吉の備忘メモやエレキテル究理原など出品し、福岡会場では、内海蘭溪の本草画譜、洪庵長崎留学時代に入門した薬師寺冬堂の資料

が展示された。

また、全会場で公開されるが、洪庵が長崎で購入、備中足守藩主におくった寒暖計は、現存するものでは日本最古といわれ、未だに正常な温度を示しているものであるが、今回の特別展で初めて公開された。

大阪での会期中に、適塾門下生の子孫である古田さんという方が来られ、門人姓名録をつぶさに見ても、古田という名が無いと、尋ねられた。よく調べてみると「元田吉輔」という人が、住所その他から当てはまるようであった。これまで「元田」とされ続けてきた通説が、今回の特別展で「古田」の誤りであると指摘されたわけで、これも、この特別展を行った1つの収穫であった。

大阪・福岡の都心のデパートを使った会場では、1日の入場者が1000人以上を越え、交通の不便な、ここくすり博物館でも、会期中最初の日曜日に、500人程の見学者が詰めかけ、冷房をフル回転しても熱気がムンムンす

るような盛況ぶりで、準備期間の苦しさがふっ飛ばような嬉しさを、関係者一同、味わっている。

なお、同展は入場無料である。

(古田恵子・井門千里)



ゾーフハルマ

新しい通信システムと博物館

—— 2つの館を結ぶ二元テレビ生中継の実演 ——

科学技術館・電気通信科学館

この夏、東京の電気通信科学館と科学技術館でおもしろい試みを行っている。両館を訪れた観覧者がテレビを通じてお互いに会話をしたりゲームやクイズを楽しんだりする新しいテレビ通信システムの実演である。

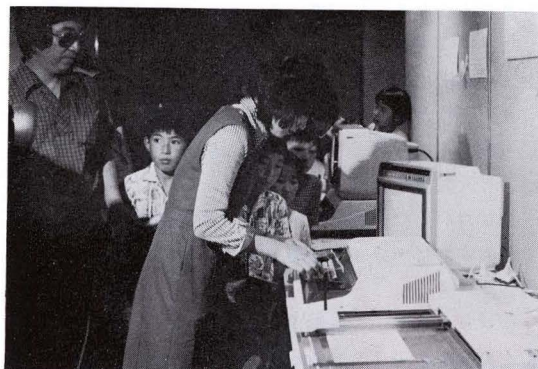
これは電気通信科学館が今年5周年を迎え記念特別展として開催している「テレコムランド'80」の一環として実演しているもので電気通信科学館のコンパニオンが毎日科学技術館側の特設会場に出張してデモンストレーションを行うという、博物館連携活動としてもユニークなものとして興味をおぼえた次第である。

従来から理工系の博物館には、よく「テレビ電話」というのが展示され子供たちの人気を集めてきたが、これはあくまで館内の近接した個所どうしの通信の域を脱することができず、中途半端なものであった。しかし、このシステムは、2つの館をレーザー光線で結び、本格的な

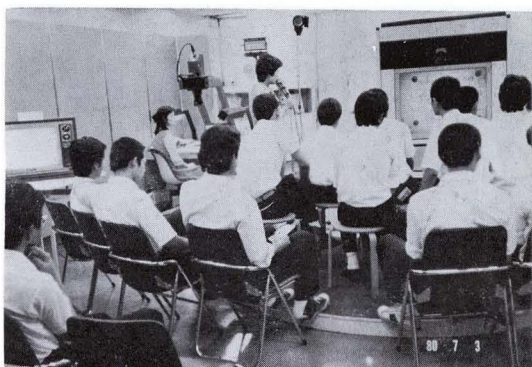
新しいテレビ通信システムとしての便利さ、楽しさを体験できるところから子供たちばかりでなく、大人の関心を集めるところともなっている。

電気通信科学館と科学技術館は、比較的近接した場所にあり、博物館としても新しい科学技術を、参加性の高い展示方法で紹介している兄弟館のような類似性があるが、このテレビ通信システムを通じてお互いの館の観覧者どうしが楽しく交流しあったり、展示の紹介をし合ったりする姿をみると、博物館連携もそろそろ各地域ごとにもっとアトラクティブな手段によるネットワーク構造をもち、来館者へのサービスをより強化する必要がでてくるのではなかろうかと感じた次第である。

この試みは8月一杯で一応終了するそうであるが、願わくば都内全博物館のネットワーク化への一歩として、とりあえず常設化されるよう切望するものである。(O)



テレコムランド'80の展示コーナー



二元テレビ生中継（電気通信科学館スタジオ）

【新しい展示】

岐阜市少年科学センターの展示

岐阜市少年科学センター

岐阜市の児童科学館が、昭和30年に建設されて以来25年間、小さいながらも子供がじかに触れて楽しみながら科学の勉強ができる展示であることを心がけてきた。このたび市制90周年と国際児童年を記念して、名称も岐阜市少年科学センターとなり、場所も移転して今年の5月開館の運びとなったものである。少年科学センターの新しい展示について特に目につく点は、展示品の制御にコンピューターや半導体回路を使っている点と、展示品の中にはビデオテープやスライドを使ったものがあるということである。以下少年科学センターの新しい展示品のおもだったものについて紹介する。

ロボット……ロボットの名前はケンとリカ。名前は公募した。製作の留意点として、動きは複雑でなくてもよいから、故障のすくないこと。また外観はやさしい顔をしていることであった。ケン少年ロボットで、無線操縦によって前進後退し、又ジャンケンをする。リカは少女ロボットで、入場券にスタンプを押して簡単な館内案内をしゃべる。天気予報、時報を聞くことができる。胸にはテレビを持っていて、案内事項などを映し出している。なお、この友達ロボット「ケン」と「リカ」は館内展示品の説明板や説明テープにもでてくる。

岐阜市の四季……今度新しく設けた郷土の自然という展示室の一角に小部屋があって、三面スクリーンに6台のカラーズライド投影機で、すべて自動で「岐阜市の四季」を映し出している。上映時間は約16分で、四季折々の主として長良川と金華山の風景を映して、その合間に昆虫や草花の美しい映像を映す。大人にとっては非常に美しく、感銘を受けている。岐阜市の四季が終わるとクイズがある。これは科学センターの中の展示品について

のおさらいクイズで、解答ボタンを押して何番のボタンを押した人が何名というように結果がわかる。子供たちにはクイズの方が人気があるのが大人にとっては意外であった。

生物の飼育展示……ギフチョウ、巣をつくる魚ハリヨ、長良川の魚の飼育展示を行っている。生物を飼育することは我々理工学系の館の者にとっては大変面倒なことである。ハリヨの巣を作っているところやギフチョウの一生をビデオ撮りして、ビデオによる展示も併せて行うように予定している。

コンピューター・カー……世に言われている「デマンドバス」システムで、自動制御で車を動かしている。通常は4台の車が道路をパトロールしていて、駅で車呼びのスイッチを押すと最寄りの空車が駅へ来る。そこで行先の駅のスイッチを押すと、その車は目的の駅へ最短の道を通っていく。車は常時4台で、駅は4か所、スイッチ操作のできる駅は3か所である。路線の交差等もあるので、制御が大へんであり、コンピューターを使って制御している。この場合、スイッチを押すということは、信号を送るということで、電気を送って車を動かすということではないのであるが、この辺のところが来館者にはのみこみにくいようである。

リニア・モーターカー……線路全面に永久磁石が張っており、車体を浮かし摩擦を少なくしている。1.5mおきくらいに3相のコイルがあって、これによってリニア・モーターを動かしている。停止の位置は一定となっていて、ブレーキによって止める。

ケンとリカの科学クイズ……ビデオテープを使った科学クイズで、案内役にケンとリカが出てくる。5人一緒にいけるようになっていて、10問のうち何問正解したかを表示するようになっている。

スライド自然百科……金華山のチョウ、金華山の甲虫、金華山の木、春の草花、長良川の魚、長良川の石のうち、どれかのスイッチを押すと、スライドを見ながら説明を聞くことができる。1つの項目で10枚のスライドがあり計60枚のスライドが入っている。

テレコントロール……（電電公社提供）外からの電話で家の中のビデオや炊飯器やクーラーなどを遠隔操作できるシステム。

マジックドア……自動ドアの入口に立って、自分の体重と身長をキーインする。その数値が本人の体重と身長に合わないとはドアは開かない。（館長 竹村信弘）



コンピューター・カー

アジア地域博物館職員訓練会議について

国立科学博物館 手塚 映男

1980年5月27日から6月2日までイコム日本委員会とユネスコ・アジア文化センターの共同主催により、「アジア地域博物館職員訓練会議」が、東京と京都を会場として開催された。この会議の主な目的は、永年懸案になっていたアジア地域博物館の中堅職員の訓練の実施に関する具体的な方策を検討することであった。中堅職員の訓練については、1973年および1976年に、日本で開催されたアジア地域博物館の近代化に関する会議、およびセミナー等で論議され、重要問題であるとして採択され、会議の勧告にも盛り込まれていたのであるが、実現のきざしが見えないままになっていた。今回の会議が、所期の目的を十分に達し、大きな成果を収めて無事終了したことによって、中堅職員の訓練（研修）計画の実現に向かって具体的に一步を踏み出したことになり、その意味では、アジア地域の博物館にとって重要な意義をもった会議であったということができよう。

会議には、国際交流基金、ユネスコ・アジア文化センターの好意によって、アジア地域の主要な博物館の専門家が招へいされ、日本側代表を加え次の方々が参加した（順序不同）。

イコム・インド委員会委員長	Mr. A. Bose
インドネシアジャカルタ博物館長	Mr. A. Sutaarga
タイ国立博物館長	Mrs. C. Chongkol
フィリッピン国立博物館長	Mr. G. L. Alcasid
韓国国立博物館美術部学芸員	Ms. N. Lee
ニュージーランド国立博物館長	Dr. J. C. Yaldwyn
イコム・アジア地域事務所長	Mrs. J. Schotsmans
イコム日本委員会委員長	福 田 繁
ブリジストン美術館長	嘉 門 安 雄

このほか、日本側からアドバイザー等として、毛利正夫日本博物館協会専務理事ほか数名が出席した。また会議の運営は、ユネスコ・アジア文化センター伊藤良二理事長をはじめ、同センターの国際会議の経験豊かなスタッフの方々の全面的な協力によって行われた。

5月27日、会議の第1日目は、午前10時から開会式が行われ、引き続き役員の選出等ののち、11時30分から、各参加者の中堅職員の研修に関する意見の発表が行われた。これらの発表から、アジア諸国の博物館職員研修の実状を知ることができ有益であった。

その一端を紹介すると、インドでは、ヨーロッパの影響もあって、1950年代から大学等にいくつかの研修プログラムがあるが、博物館に興味をもつ学者は少なく、ま

た学生もなかなか集まらないという悩みを抱えているようであった。しかし、具体的な実績を積みあげているだけにアジア地域の研修には、日本を除いてはもっとも意欲的であるように感じられた。インドネシアでは、近年、民族学を中心とした博物館の発展に力を注いでおり、これにともない教育文化省の地方出張所や国立博物館で、初級者用、上級者用の2つのタイプの研修が軌道に乗り始めているとのことであった。タイ、フィリッピンは、研修の必要性を感じながらも実施が困難のようで、アジア地域共通の研修に、大きな期待を寄せているようであった。韓国は、ソール大学に博物館学のコースはあるが、日本やアメリカなどで研修するケースが多く効果をあげている。このような見地から、研修機関のネットワークを作れば、新しく研修機関を作らなくてすむという主旨の発言をしていた。ニュージーランドでは、正式な研修ではないが、大学を卒業した一般社会人で興味を持つ人を対象に、博物館の現場で一定期間指導して資格を与え、専門職員の不足を補っているという発表があり、注目された。その研修には、4つのコースがあるとのことであった。また、日本代表である嘉門安雄ブリジストン美術館長は、すでに整理されている資料が出発点となっているヨーロッパの博物館学は、新しい資料を収集することから出発しなければならないアジアの博物館には適合しないのではないかという疑問を提起し、アジアに適した研修内容の必要性を強調し、参加者の共感呼んだ。さらに福田繁イコム日本委員会委員長から、研修への参加者、研修期間、講師、経費等、実施のための具体的な計画とともに、研修のカリキュラムとして、アジア地域博物館職員基準要目を提案した。

この基準要目は翌28日午前中に議題として審議された。基準要目の内容が博物館学全般を理解するというのではなく、現場の仕事に役立つ博物館学の基礎的事項という観点からまとめられていたので、審議の結果好評を博した。しかし、さすがにアジア地域を代表する博物館の専門家だけに、説明終了後、研修事項に補足する事項について、各参加者から次々に意見が出された。また、研修の目的、中堅職員の概念についての論議も行われた。さらに研修期間についても、当初5週間で用意されていたが、これでは短いという意見がインドを初め東南アジア諸国に強く、結局8週間に落ち着いた。これらの意見は早速取り入れることとし、基準要目に修正を加え、5月30日午後に再度審議し、アジア地域博物館職員研修基

準要目 (Standard Syllabus) として合意された。この要目の項目別時間配当は次のとおりで実習に重点がおかれているのも特徴である。

(項 目)	(講義)	(実習)	(合計)
オリエンテーション, その他	4 時間	0 時間	4 時間
博物館学序論	7	0	7
博物館の管理と運営	14	7	21
博物館資料の収集	10	49	59
博物館資料の保存と管理	24	46	70
調 査 研 究	10	14	24
展 示	21	56	77
教育普及活動	16	8	24

エキスカージョン	0	18	18
合 計	106 (35%)	198 (65%)	304 (100%)

なお、基準要目の内容は、近く「博物館研究」に掲載される予定であるので参照していただきたい。

会議は、引き続き研修実施の場合の経費等も審議され、5月31日からは会場を京都に移し、博物館施設の見学とともに、勧告案の審議と採択を行い、6月2日全日程を無事終了した。こうして、アジア地域博物館職員研修について、基準要目を合意し、実現に向かって第一歩を踏み出すことができたわけで、この会議の意義は、アジア地域の博物館の発展にとってきわめて大きなものがあると思う。

昭和55年度全科協の理事会、総会の開催

さる6月26日(木)、昭和55年度全国科学博物館協議会理事会及び総会を国立科学博物館大会議室で開催した。出席館園は21館で、委任状提出館が41館であった。

はじめに福田繁理事長から、全科協では少ない予算で有意義な事業を実施しており、さらにこのようなことを行ったらということがあったら予算の範囲で考えていきたいこと、また、全科協自体もっとPRをおし進め会員を増やす必要があるという趣旨のあいさつがあった。

続いて議事に入り、役員の改選、昭和54年度事業報告及び収支決算案、昭和55年度事業計画及び収支予算案について討議した。

役員の改選については、次のように決定された。理事館は再選、監事館は従来の熱川バナナ・ワニ園に代わってアリタキ・アーボレータムが選出された。

理事長館 国立科学博物館

理 事 館 大阪市立自然史博物館、神奈川県立青少年センター、科学技術館、交通博物館、五島プラネタリウム、通信博物館、御園天文科学センター、市立名古屋科学館、NHK放送博物館、室蘭市青少年科学館、斎藤報恩会自然史博物館、鳥取県立博物館、佐賀県立博物館

監 事 館 電気通信科学館、アリタキ・アーボレータム

昭和54年度事業報告については、第9回全科協博物館事業研究会の実施、昭和54年度博物館職員講習に対する協力、全科協ニュース等の発行、「科学博物館への招待」の編集、会員館園相互の協力事業の実施、博物館資料の譲渡斡旋について事務局から説明があり、了承された。

昭和54年度収支決算については決算書に基づき事務局から説明を行い、了承された。収支決算の概要は次のと

おりである。

収入の部	支出の部
繰越金 86,910円	事業費 707,400円
会費収入 522,000	事務費 115,500
雑収入 209,124	予備費 0
寄附金 100,000	繰越金 95,134
計 918,034	計 918,034

昭和55年度事業計画については、計画案を事務局より説明し、次のとおり決定された。

1. 博物館資料の収集・貸借の斡旋ならびに情報提供
2. 研究会、講習会の実施、協力
 - (1) 第10回全科協博物館事業研究会の実施
 - (2) 国立社会教育研修所で実施する「博物館職員講習」への協力
3. 全科協ニュースの発行及び研究成果の発表
 - (1) 全科協ニュースは年6回、B5版6ページで600部を印刷する。
 - (2) 研究成果は、全科協ニュースの中に「サイエンス・ミュージアム」として組み入れて発表する。
4. 会員館園を中心とした科学系博物館に関する普及広報
5. 会員館園に対する協力事業の実施援助

昭和55年度収支予算について事務局から案を説明し、承認された。予算書の概要は次のとおり。

収入の部	支出の部
繰越金 95,134円	事業費 817,100円
会員収入 609,000	事務費 239,400
雑収入 701,750	予備費 449,384
寄附金 100,000	
計 1,505,884	計 1,505,884

その他当日の会場で話し合われた主な話題を紹介する。

1. 全科協ニュースの原稿集めに、編集委員諸氏は苦心している。依頼や催足の手間もあまりかけられないのが実状であるが、全科協ニュースは各館園全員の力で作り上げていくものであることを御認識いただきたいという意見があった。
2. 東京以外の場所で取材を兼ねた全科協ニュースの編集会議を開いたり編集委員の夢は広がるが、予算の

制約もあり、創意と工夫でがんばりたい旨の発言があった。

3. 東京近辺に編集委員は集まっているが、各地域に取材委員を設けてはどうかという意見が出された。
4. 「科学博物館への招待」のPRと販売について各館園に協力をお願いしたい旨事務局から発言があった。
5. 東レ科学振興会の東レ理科教育賞の応募資格に、今年度から博物館職員も含まれることになったと事務局から報告された。

会 員 館 園 の 紹 介

郡山市児童文化会館

所在地 福島県郡山市開成1丁目1番1号

電話 (0429) 32-5326

新しく大きく生まれかわる。

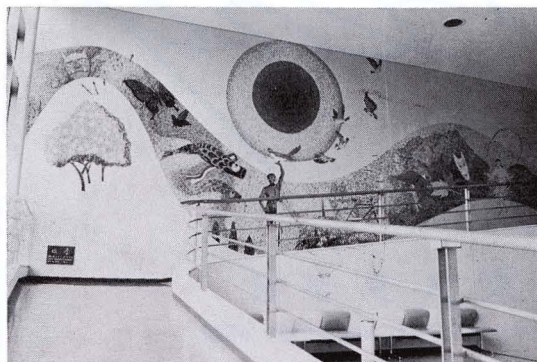
昭和36年に建設され、長い間子どもたちの夢をつちかい創造の芽を育ててきた旧児童文化会館は狭隘と老朽化のため、国際児童年を記念し、豊かな緑の空間30.3haの開成山公園の一角に新しく建設し、昭和55年5月1日に開館した。

開館を記念して5月3・4・5日の3連休に館外ではミニSL(1/4縮小)の試乗会、館内では映画会、人形劇、顕微鏡による観察その他の種々の展示等記念事業を行って、記念事業期間中2万人の来館者を迎え、新館のPRには大いに役立った。

主な施設内容

科学のひろば(1階)

展示ルームとしていろいろなパノラマ、科学機器等を展示し、見たり、動かしたり、ためしたりして豊かな知識をひろめ科学する心を養うひろばである。ひろばの中核をなすものとしてワイドパノラマ「郡山・その未来」がある。これは、市の将来を5000分の1のパノラマの中に盛り込んだものでナレーションのほかに



科学のひろば

光の点滅、スポット、音響、特殊電光サインを駆使し、説明する仕組みになっている。(全自動で映写装置も備えてある。)

会場は、パノラマを高所から見られるように周囲に廻廊(一部ガラス)を配し、約50名が一堂に市の将来について学習できるようになっている。

プラネタリウム室(2階)

ドームは直径12mで観覧席も140席あり従来のものとは根本的に異なった設計で教育のためのプラネタリウムとして十分な機能を有している。

天文学習室(2階)

ドームの中には15cm屈折赤道儀が設置され、プラネタリウムと共に天文学習の活動に使われている。

催しひろば、手づくり室、クラブ室

長期クラブ等に利用されている。

館の事業

学校教育の館内授業

プラネタリウム等特殊教育機器の有効利用のために学校との連携を図り、館内授業を進めるよう計画中である。当市は729.42km²の面積を擁し、小・中83校が点在している地理的条件のため、星の学習をはじめる小学校5年生を手はじめに学校から館の往復をバス会社と契約して足の確保を図ったものである。

クラブ活動

小(4年から)中学生を対象とした長期クラブ活動を実施している。55年度は七宝クラブ、やきものクラブ、工作クラブ、絵画クラブ、手芸クラブ、天文クラブ、ふるさとクラブ、生物クラブの8クラブで市内小中学校の児童生徒がお互いの交流を深めながら、楽しく勉強をしている。その他親と子の「天文教室」、「絵をかくつどい」、イラスト展、総合美展、将棋講座、手づくり講座、子どもオリンピック等が行われる。

規 模

鉄筋コンクリート2階建、延面積1806m²

- 1階……事務室, 会議室, 科学のひろば, 催しひろば, 機械室その他
 2階……手づくり室, 第1クラブ室, 第2クラブ室, プラネタリウム室, 天文学習室
 別棟……焼窯庫

お 知 ら せ

財団法人東レ科学振興会では, 東レ理科教育賞を制定しており, 毎年理科教育上著しい効果をあげた独創的な教材・教具および指導実績を募集しています。今年度の第12回募集から博物館などにおける自然科学教育も対象とすることになり, 博物館の職員にも応募資格が生じました。

科学博物館の場合は, 独創性のある展示品, クラブ活動が応募対象となります。クラブ活動は, どのような指導を行ったかということだけではなく, それらの活動において指導者と学習者の役割, 学習者同志の協力, 地域社会に対する影響, また学習者の自発性がどのように改善されたかなど, 特に人間形成に及ぼす成果を記入することに御留意ください。

応募締切は10月15日(必着)となっていますので, 積極的に応募されることをお勧めします。

応募要項は全科協の各会員館あてに送付されますが, 申請書の請求, 提出先および照会先は次のとおりです。

〒103 東京都中央区日本橋室町2-2 (東レビル)

財団法人 東レ科学振興会

TEL (03) 245-5919

「科学博物館への招待」刊行される

全科協の昭和54年度の事業の一つとして計画されていた「科学博物館への招待」は, さる6月10日に東海大学出版会から刊行されました。

内容は, 各会員館から寄せられた原稿による各館の紹介を中心に, 科学博物館を利用者の立場に立ってどのように利用できるか説明してあります。分野別の検索表や巻末の科学系博物館一覧表も役に立ちます。8ページのカラー口絵をはじめ写真やイラストもたくさん入った本書は, 四六判, 206ページで, 定価は1,000円です。

本書は, 全国の一般書店でも購入できますが, 会員館の売店等でも取り扱っていただきたくお願いします。その場合は一部につき850円でお渡しする委託販売になりますので, 年度内の返本も可能です。申込み, 送金方法等は次のとおりですが, 会員館の職員, 関係者で購入希望があれば, 同様に扱います。

1. 申込み ①部数, ②住所, ③館園名, ④責任者氏名(押印)を記入し, 全科協事務局へお申し込みください。
2. 販売形式 委託販売
3. 代 金 850円
4. 返本期限 昭和55年2月28日
5. 送金時期 ①昭和55年9月30日(中間支払い)
②昭和56年2月28日(最終期限)
6. 送金方法 銀行振込
(口座名) 三井銀行上野広小路支店
普通預金 ㏽ 0966539
全国科学博物館協議会




株 式 会 社 東 京 ス タ デ オ

本社 東京都豊島区駒込1-14-6 TEL 03・946・8241

TOKYO SAPPORO SAITAMA HAMAMATSU TOYOHASHI KYOTO